

マヤビニック・コーヒープロジェクト 連載 2

マヤビニック・ジャパンの理念

- 一杯のコーヒーから、いっぱいのお笑いを -

プロジェクト代表 慶応大学大学生
照沼かおり

メキシコ、チアパス州からの便り

はじめまして、マヤビニック・ジャパンの照沼かおりと申します。この号が出ている頃は、ちょうど、メキシコチアパス州にいるころでしょうか。わが、マヤビニック・ジャパンのメンバー、森谷（前号掲載記事の執筆者）と私、そしてお取引先の自家焙煎店の方と一緒に農園を訪ねます。四月に輸入するための豆の品質チェックと、生産者へのインタビュー、生産共同組合「マヤビニック」とフェアトレードの今後の方向性について話し合うことが主な目的です。マヤビニックの肥沃な山々は、完熟の赤い実でいっぱいになっていることでしょうか。マヤビニックから二月に届きましたニユークロップのサンプル

を、いくつかの自家焙煎店のみなさまにお試しいただき、幸いにも好評の声をいただいております。収穫期のこの時期に、メキシコに行けることがますます楽しみです。滞在期間五日間スケジュールの短い滞在になります。次号でも、生産地の状況、豆の出来具合について詳しくご報告できれば、と思います。

『マヤビニック・ジャパン』設立

先月号では、主に、「コーヒー豆生産共同組合マヤビニック」と、「フェアトレード」についてのお話をさせていただきました。今月号では、私たち、「マヤビニック・ジャパン」の理念と、自家焙煎店のみなさまとのご協力の下、どのように産学連携の形をとっていくか、具体的にご説

明をさせていただきます。

なお、三月をもちまして、森谷は卒業です。今年度は、後輩のわたくし、照沼が二〇〇四年度代表を務めさせていただくことになりました。引き続き、同じく慶應義塾大学、山本純一教授の指導の下、プロジェクトを進める予定ですが、研究プロジェクトからは独立した体制で、「マヤビニック・ジャパン」として活動していきます。

『マヤビニック・ジャパン』の理念

「一杯のコーヒーをいっぱいの笑みに」をキーワードに、「マヤビニックの可能性を一緒に育てていきましよう」というのが、私たちの活動理念です。

『マヤビニック』の人々に、ビジネスチャンスを提供することで、彼らの自立

と自由の獲得を目指す。ビジネスを成功させるために、私たちは、マヤビニツクをはじめ、お取引先や消費者の方々と、継続的に相互に情報提供をし、協力関係を築いていく。』という考えで、自家焙煎店のみならずと産学連携の関係を結びながら、ビジネスを展開し、彼らとのフェアトレードを確立することを目的に活動していきます。

【事業形態】

具体的な事業形態を図に示しましたのでご覧ください。マヤビニツク・ジャパンを通じて、マヤビニツクの生豆を自家焙煎店のみならず、お届けいたします。同時に、その年の豆の出来具合や有機栽培、マヤビニツク生産共同体の状況についての「情報」を発信します。そして、自

家焙煎店のみならず消費者の方から、輸送状態・方法や生豆の味に関する「評価」をいただき、わたくしどもが直接マヤビニツク生産共同組合に伝達し、同時にさらなる品質の向上を目指します。

【還元方法】

フェアトレードで得た利益の還元は直接行いません。年に二回、マヤビニツク・ジャパンの学生が、現地調査のため、チアパス州に出向き、その際に、その年の還元分(フェアトレードで得たお金)を、学生の手から、彼らに手渡しいたします。それも、ただ単に分配するのではなく、彼らと使い道を相談しながら、そのお金を、マヤビニツクのさらなる事業展開や生活向上のために役立ててもらうことが重要でしょ

う。

【還元金の使い道】

例えば、コーヒー豆のスクリーン作業のための網を新たに購入します。私たちは₁サイズ以上の豆だけを輸入しようと考えていますが、マヤビニツクが他の組合と共同使用している精製工場の機械では、₂サイズでは計ることが出来なく、現在はずべて手作業でおこなっています。また、₃コーヒー以外の事業展開の資金にします。マヤビニツクでは、現在、はちみつ作りを試みています。フェアトレードで得た資金で、新しい巣箱を買うことが出来ます。

毎年、学生が、資金が何の目的でどれくらい使われたか調査し、次年度の要求を聞き、解決策を練って、こうと思っています。

【農園見学】

自家焙煎店のみならずも、ぜひ農園を視察していただきたく思います。よりきめ細かな品質の向上に關しても、ご教授いただければと思います。

このような活動を通じて、マヤビニツクに日本とのビジネスチャンスを得、彼らの自立につながれば、と考えております。

なぜこのプロジェクトをやるのか、個人的見解

以上が、マヤビニツク・ジャパンの活動理念と目的ですが、ここで少し脱線して、わたくし個人のこのプロジェクトの代表を務めさせていただいている理由、いわばマヤビニツク・コーヒーにかける熱き思いをお話したいと思います。

【顔の見える貿易】

わたしがこのプロジェクトに情熱を傾ける理由その一、『消費者にとって、生産者の顔が見える貿易』を確立したいからです。

ご存知のように、コーヒーの分野においては、トレーサビリティに力を入れていらつしやるところは、まだまだ多くありません。一般の消費者の方は、どの国で作られているかはご存知でも、どんな農園で、どんな肥料を使って、誰がつみとったのか、そして、どのように運ばれてきたのか、まだまだ十分な情報がないように思います。消費者の安全や安心に対する関心は高まっており、世の中の風潮としても、ますます、今後生産者に関する情報を提供することが重要になってくるでしょう。

マヤビニック・ジャパンは、生産者の情報を可能な限り報告していきます。

私が食の安全に対して、このような思いを抱くようになったのには、高校2年生のときに体験した、茨城県東海村のJCO臨界事故がきっかけです。工場まで『00メートルとかなり近いところに住んでおりましたので、家庭菜園している野菜は、念のためということ、食べてはいけないもの』となりました。祖母は農家で、安全は証明されているにも関わらず、『茨城産』というだけで売り上げが落ちたそうです。この事故を経験して、一番安全だと思っていた食べ物突然、危険な食べ物になりうるという怖さを実感いたしました。安全で安心な食べ物にひどくこだわるようになったの

は、このことがきっかけかと思えます。

ですから、大好きなコーヒーで、『生産者の顔がわかり、安全で安心できるものを提供したい』という思いを達成できたら、これほど幸せなことはありません。

【文化を通じて相互理解】

そして二つ目が、『文化を通じて、文化の異なる人々の相互理解のきっかけづくりをしたい』、という思いです。まだ一度しかメキシコを訪れたことしかありませんが、私は一度でその文化が好きになりました。個性豊かなメキシコの文化を、コーヒーを通じてみなさまと共有できたらな、と思っています。マヤビニック・ジャパンは、マヤビニックやメキシコの生活習慣や文化に関

しても、情報を提供していきます。どんな国に住んでいる人が、自分の飲むコーヒーを作っているのだろう、どんな生活をしているのだろう、ということ、消費者が身近に感じることで、おのずと、その国や民族に対する興味を抱いていただければ幸いです。その瞬間が、食を通じた、新しい文化交流です。

【コーヒーとの出会い】

私とコーヒーの出会いは、大学受験のときです。眠気を覚ますために、最初はコーヒーを嫌々飲んでおりました。合格が出るころには、飲みすぎて胃がおかしくなり、眠気覚ましにも効かなくなっていました。それは、コーヒーを飲み続けたことが、私をコーヒー好きにたらしめた要因だったかもし

れません。

マヤビニック・コーヒーを店頭に

少々おしゃべりを過ぎました。次は、実際に自家焙煎店のみなさまとどのようなビジネス関係を築くかについてご説明いたします。

2004年4月にメキシコの港からコンテナが出るので、お店に並ぶのは、5月の初旬になるかと思えます。ご希望の方には、サンプルをお送りいたしますので、お気軽にご連絡ください(連絡先は文末にございます)。

生豆の輸入・輸送の業務は、すべてアタカ通商さんをお願いすることになりました。商品に関するご説明に関しては、わたくしども学生が中心にやっ

きます。アタカ通商さんは、わたくしどもの「フェアトレード」のコンセプトに大変共感してくださり、無償でご協力してくださいませ。

自家焙煎店への消費者の方への販売促進ツールとして、現在のところ、以下のようなものを考えています。

【販促ツール】

- ・ マヤビニック・コーヒーご紹介のためのパンフレット(カラー)
- ・ マヤビニック・コーヒーご紹介のためのポスター(ご希望の方)
- ・ マヤビニック通信の発行(A4サイズを予定しています、定期的に発行します)
- ・ マヤビニックのロゴ

シール(コーヒーのパッケージにご利用ください)

- ・ コーヒー麻袋(ご希望の方に、数量限定です)

- ・ メールマガジン(隔週を予定、毎回焙煎店のご紹介をする予定です)

- ・ マヤビニックへの“お客様便り”ボックス(ご希望の方)

これに加えて、自家焙煎店のみなさまには、

- ・ 農園見学(2004年夏に学生がまた行く予定です、費用はそれぞれのご負担となります)

- ・ 年に1、2回の詳しい現地調査のレポート
- ・ をご提供させていただきます

く予定であります。今年は、生豆輸入初ということ、特に産地の情報に関しては、「マヤビニック通信」を定期的に発行することで、詳しくご紹介したいと思うっております。わたくしども学生のマヤビニックを訪れた感想や体験談、そして、生産者の生活状況やコーヒーへのこだわりなど、魅力的なコンテンツを盛り込んでいこうと、いろいろと考えを巡らせております。マヤビニック・コーヒーを日本に継続的に展開していくためのアイディアなど、一緒に考えていければ幸いです。

次の号では、マヤビニック来訪のご報告を詳しくご紹介する予定です。サンプルや生産地情報、マヤビニック・ジャンの活動に関して、ご質問・ご意見な



どございましたら、わたくし
しマヤビニック・ジャパン
代表・照沼まで、ご遠慮な
くお問い合わせください。
お待ちしております。